

第2次宇都宮都市交通戦略 施策事業 進捗評価表 4

1. 施策の目的と目標

□基本方針	4. 交通を「ひろげる」	□目的	自動運転技術や電気自動車・燃料電池車などの科学技術の進歩を踏まえ、国やモビリティ関連企業等と積極的に連携しながら、新たな科学技術の交通分野への活用を検討するとともに、鉄道やLRT、幹線バス路線などの本市と周辺市町とを結ぶ広域的な交通ネットワークの充実を図るなど、交通の範囲や可能性を拡げる。			
□施策の体系	(1) 最新の科学技術を活用して交通を発展させる (2) 新たな移動サービスを活用して交通を充実させる		(3) 広域的な交通ネットワークを充実させる			
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	進捗状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年 (b/c)	進捗評価
	① 交流人口 (観光入込客数)	1, 499万人 (H29年度)	747万人 (R2年度)	1, 550万人 (R4年度)	96.7% ⇒ 48.2%	減少している (新型コロナウイルス感染症の影響により)

2. 重点事業の実施状況と評価

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 △:一部未達成

施策事業名	事業主体	R1年度 実施状況	R2年度 当初予定	R2年度 実施状況	R2年度 評価(◇成果◆課題)	R3年度 当初予定
4-(1)-② バス・タクシーへのゼロ エミッション車の導入推 進	交通事業者 宇都宮市	○LRTの端末交通手段へのEV導入の 検討 ⇒LRT沿線の低炭素化の取組の中で 検討	○EVバス等導入に向けた課題の抽出 及び支援策の調査研究 ○水素等の先端環境技術の活用に向 けた調査研究	○EVバス等導入に向けた課題の抽出 及び支援策の調査研究 ⇒EVバス等導入に向けた先進事例等 の調査 ○水素等の先端環境技術の活用に向 けた調査研究 ⇒水素技術の活用について県、事業者 と意見交換	◇EVバス等導入に向けて先進事例等の調査をす るとともに、水素技術の活用に向けて県、民間事業者と意見交換を 行い課題を抽出するなど、環境にやさしい車両の導入に向 けた取組が推進されている。 ○ ◆交通部門の低炭素化の促進に向けて、引き続きLRT沿 線の低炭素化の取組などと連携しながら、トランジットセン ター周辺における充電施設等のインフラ整備を進めていくと ともに、公共交通車両へのEV車両等の導入に向けて、事 業者への行政支援策等の検討をしていく必要がある。	○EVバス等導入に向けた課題の抽出 及び支援策の検討 ⇒バス事業者等の側面から見た導入課 題や必要な支援策等について、事業者 とともに検討 ○水素を活用した脱炭素の取組の推進 に向けた調査研究の実施 ⇒先進事例等の調査のほか、民間事業 者との情報交換などによる多角的な検 討
4-(3)-② 広域バス路線の充実	交通事業者 宇都宮市	○LRT導入後の広域バス路線の運行 内容等の検討 ⇒LRT導入後の運行経路・運行本数等 の検討 ⇒国・県の補助制度の活用を想定した 収支予測の実施 ⇒周辺市町との協議・調整(真岡市・芳 賀町・市貝町・茂木町)	○LRT導入後の広域バス路線の運 行内容等の検討 ⇒「地域公共交通利便増進実施計 画」の策定に向けたLRT導入後の運 行経路・運行本数等の検討 ⇒周辺市町との協議・調整(真岡市・芳 賀町・市貝町・茂木町)	○LRT導入後の広域バス路線の運行 内容等の検討 ⇒LRT導入後の運行経路・運行本数等 についてバス事業者と協議を実施 ⇒周辺市町との協議・調整(真岡市・芳 賀町・市貝町・茂木町)	◇広域バス路線の充実に向けて、バス事業者や周辺市町と 運行経路・運行本数等の詳細について協議・調整を行うな ど、LRT導入と併せたバス再編の検討が進められている。 ○ ◆本市におけるバス路線再編の実施と併せた広域路線の 充実に向けて、運行経路や運行本数等について周辺市 町、バス事業者と合意形成を図る必要がある。	○LRT導入後の広域バス路線の運行 内容等の検討 ⇒本市の「地域公共交通利便増進実施 計画」の策定に向けたLRT導入後の運 行経路・運行本数等の決定 ⇒周辺市町との協議・調整(真岡市・芳 賀町・市貝町・茂木町)

3. 施策の評価

<p><4-(1)>最新の科学技術を活用して交通を発展させる</p> <p>【成果】</p> <p>・LRT沿線の低炭素化に向けた取組の中で、LRTの支線バス路線へのEVの活用について検討するとともに、大谷地区における、AI相乗り観光タクシーやグリーンスローモビリティによる観光二次交通の社会実験の実施に加え、AIによる地域内交通の予約配車システム導入の実証実験に向けた準備が進められるなど、先進技術の交通分野への活用の取組が推進されている。</p> <p>【課題】</p> <p>・公共交通ネットワークの更なる充実や交通分野の低炭素化の促進にむけて、自動運転車両やEV、FCVなどの最新の科学技術の公共交通への活用について、民間企業等の技術開発の状況などを注視しながら、検討を進める必要がある。</p>

4. 施策の方針

<p><4-(1)>最新の科学技術を活用して交通を発展させる</p> <p>・LRT沿線の低炭素化の取組を進める中で、引き続き、トランジットセンターに接続するLRTの支線バス路線やタクシー車両等へのゼロエミッション車の導入について検討するとともに、AIを活用した地域内交通の運行の効率化の実証実験を実施するなど、公共交通への先進技術の導入について、検討を進めていく。</p>

＜4－②＞新たな移動サービスを活用して交通を充実させる

【成果】

・ICTを活用して都市の課題解決を図るスマートシティの実現に向けた取組の中で、太谷地域を目的地とした「観光型M a a S」の導入について社会実験を行うなど、新たな移動サービスを活用した取組を着実に推進している。

【課題】

・市民の移動利便性の更なる向上を図るため、現在、取り組んでいる観光型M a a Sの導入による効果などを踏まえ、引き続き、市民や市内従業者等の利用を想定した「地域版M a a S」の導入について検討するなど、新たな移動サービスの活用を推進する必要がある。

＜4－③＞広域的な交通ネットワークを充実させる

【成果】

・本市と周辺市町を結ぶ広域バス路線について、本市におけるL R Tの導入やバス路線再編の検討状況を踏まえ、運行経路や運行本数等の検討を周辺市町と一体となって進めるなど、広域的な公共交通ネットワークの充実に向けた取組を着実に推進している。

・本市と周辺市町で構成する「県央地域公共交通利活用促進協議会」において、県央地域の3市5町が一体となり、バスの乗り方教室を実施するとともに、外国語版のホームページを作成するなど、公共交通の利活用の促進に県央地域の3市5町が一体となって取り組んでいる。

【課題】

・本市と周辺市町とを結ぶ広域バス路線について、駅東側の「地域公共交通利便増進実施計画」の策定に向けて、周辺市町と再編後のバス路線の運行内容等について最終的な調整を行う必要がある。

・交通ICカードの導入による、定時性・速達性向上などの効果をさらに高めるため、関係市町と連携しながらICカードの普及促進に広域的に取り組む必要がある。

＜4－②＞新たな移動サービスを活用して交通を充実させる

・スマートシティの実現に向けた取組の中で、引き続き、「観光型M a a S」の社会実装に向けて取り組むとともに、市民等の利用が想定される「地域版M a a S」の導入を検討するなど、市民や来訪者などの公共交通による移動利便性の向上に取り組む。

＜4－③＞広域的な交通ネットワークを充実させる

・広域バス路線について、引き続き、周辺市町の財政負担への影響などにも配慮しながら、運行経路や運行本数等の最終調整を進め、広域的なバス路線も含めたJ R宇都宮駅以東の「地域公共交通利便増進実施計画」を策定する。

・交通ICカードの導入による効果の最大化を図るため、「県央地域公共交通利活用促進協議会」などを活用しながら、交通ICカードの普及促進やICカードの導入を契機とした公共交通の利用促進に周辺市町と連携しながら取り組む。

※ 施策の評価及び施策の方針については、本資料及び資料4「具体的な施策事業個票」に基づき作成

基本方針4－① 交流人口(観光入込客数)

